

凝固切開パワーソースによる 感染リスクを軽減した無結紮手術

堀川 利之 清水 良憲 田中 妙子 津田 豪太
福井県済生会病院 耳鼻咽喉科頸部外科

頭頸部手術の中では、血管の結紮は基本かつ必須の構成要素であり、外科系医師が最初に修練する手技のひとつである。しかしながら出血を防止し安全な手術のために行われる結紮は、同時に体内に異物を残すというデメリット（危険性）を常にはらんできた。体内に残された糸は、異物として局所の炎症反応、肉芽形成、そして感染源としての負の作用を及ぼすリスクから常に免れ得ない。そしてこれら異物反応を軽減するため、多種多様な手術用糸（合成糸、撚り糸、モノフィラメント、吸収糸、抗菌加工糸など）の開発と使い分け、多彩な結紮手技の導入開発がこれまでなされ議論されてきたが、リスクが消失することはなかった。当科では数年前から頭頸部手術での糸による結紮の代用として、超音波凝固切開装置（ハーモニクスカルペル）や血管シーリングシステム（Ligasure vessel sealing system）などのパワーソースの利用を試みはじめた。これらデバイスの利用が、手術の簡素化、スピード化、そして縫合糸（異物）を体内に残さないことによる手術の安全性の向上に寄与することを期待しての導入である。我々のパワーソース利用範囲は徐々に拡大し、現在、甲状腺手術、耳下腺手術、頸部郭清などを含めた様々な頭頸部手術においてパワーソースを利用している。今回これらデバイスを利用した経験を、経験上感じた利点、欠点などととも考察し報告したい。